

陸上競技のユニフォームに対する学生の関心の研究

The Measurement of Student Athlete' Linking for Their Uniform.

1K04A085-1

小池 貫太

指導教員

主査 磯繁雄先生

副査 鳥居俊先生

目的

陸上競技未経験者がどのような観点からユニフォームの良し悪しを決定するのか、それは陸上競技経験者と比べてどのような差異があるのかをはっきりさせたい。また男女の差異も同様にして比較したい。陸上競技のユニフォームの世間的な嗜好を明らかにすることでよりメディアや一般的にも受け入れられるデザインのユニフォームが作れるはずである。また、大学に在学している陸上競技経験者は、ユニフォームで大学名を知ることが出来る中でどのような観点から良し悪しを選んでいくのかにも、非常に興味がある。様々な対象から意見を取り比較していきたい。

これらの調査もとに、陸上競技のユニフォームに関する関心の因子を明らかにし、ユニフォームが学生にとってどのような印象を与えているのかを検討する。

方法

調査は、東京埼玉で陸上競技を行っている 15 歳から 24 歳までの男女学生 121 名と東京で現在生活している陸上競技を経験したことのない男女学生 86 名の計 207 名を対象に、2007 年 10 月に行った。

まず男性陸上競技経験者と女性陸上競技経験者に分けて各意見項目への反応の平均値を算出し、男女の違いによる差異を明らかにするために、項目別に平均値の差の検定(t 検定)を行った。

次に、ユニフォームに対する関心の項目別差異を明らかにするために項目別にそれぞれの平均値を算出し、項目別に平均値の差の検定を行った。それぞれの項目の平均から検出した関心の高い成分はその差を男女、陸上競技歴別にして検出した。それぞれの項目の平均から検出した関心の低い成分についてその差を、男女、陸上競技歴別にして検出した。

箱根駅伝のユニフォームについては集計結果をすべて集計しその総数をグラフ化し、順位を示した。集計結果は、男女別、競技経験別に比較した。また、アンケート回収時に行った口頭アンケート結果も全てデータ化し、集計した。集計結果から出てきた学生陸上競技選手の好印象を与える要因は個別に集計を行った。

結果

学生の陸上競技経験者のユニフォームの関心に

共通して推測出来ることは、学生はユニフォームにカッコよさを求め強いチーム、有名なチームのユニフォームに憧れを抱きながらも現在着用しているユニフォームには概ね満足していることだ。ユニフォームを変更したい、自由に着たいという願望はどの対象者にも少ないことや、カッコいいユニフォームを着たいという願望に比べ観客等にユニフォームを見られている意識が少ないことから、現在着用しているユニフォームに恥ずかしさは感じていないようだ。ほとんどの学生にとってユニフォームは自己満足のものであり周囲から目立つためのものではないという集計結果となった。周囲からユニフォームのデザインを褒められたいためにカッコいいユニフォームを着用したいのではなく、自分の強さ、勝利をアピールする為にパフォーマンス向上の意味を込めて選手自身がカッコいいと思うユニフォームを着用したいと感じていることがわかった。

考察

この研究より、陸上競技の関心についてのアンケートからは学生陸上競技選手はよりカッコいいユニフォームを着たいとしながらも周囲から自身のユニフォームは見られている意識は少なく、自分のパフォーマンス向上やカッコいいユニフォームを着たいという自己満足の為に着用したいと感じていることが明らかとなった。また、スタイルチェンジについての関心は非常に弱かった。先行研究でバスケットボールの学生選手に行った同様のアンケートでは競技成績が高い選手のスタイルチェンジの関心が強かったため、なぜ陸上競技とバスケットボールで差が出たのかは本研究ではわからなかった。

また、女性の方がユニフォームを見せるものとしての対人認知に関心が強い、という研究結果においては先行研究と同様でありスポーツ全般において言えると推測出来る。

箱根駅伝のユニフォームについてのアンケートからは、学生に好印象を与えるユニフォームの条件は「下地が白でなく、黒に近い濃色であること」と「胸元の中央に大きくイニシャルでロゴマークがある」の2つであった。しかし下地の色とマークの位置が酷似している明治大学と早稲田大学のユニフォームの印象の差が果たしてユニフォームの知名度だけなのか、この点は研究の必要があろう。